

(大阪東北部)

大坂城跡は、上町台地の先端に位置し、範囲は二・二km四方に及ぶ。築城（一五八三年）以後、三ノ丸の造成（一五九八年）までを豊臣前期、大坂夏の陣（一六一五年）までを豊臣後期と呼んでいる。遺跡内には、縄文時代から弥生時代の森の宮遺跡や都城遺跡である難波宮跡が含まれ、これらに関係する遺

- 1 所在地 大阪市中央区谷町一・二丁目
- 2 調査期間 ○S九七一一次調査 一九九七年（平9）四月一〇月
- 3 発掘機関 (財)大阪市文化財協会
- 4 調査担当者 伊藤 純・平田洋司・古市 晃
- 5 遺跡の種類 城郭跡
- 6 遺跡の年代 縄文時代～江戸時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要
- 8 木簡の収文・内容

(1)

・

さたの御のこきり
ゑともに□□さう

ち之やりのゑの

そりはし三い

ろ御かして可申上候

・「

ゆふへ上□候

いかたし

□□

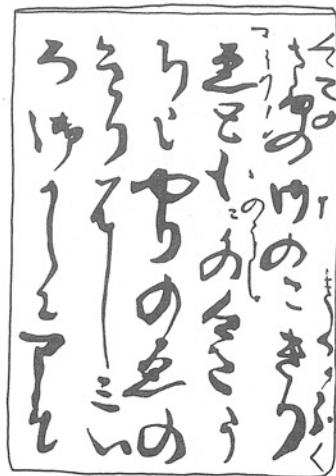
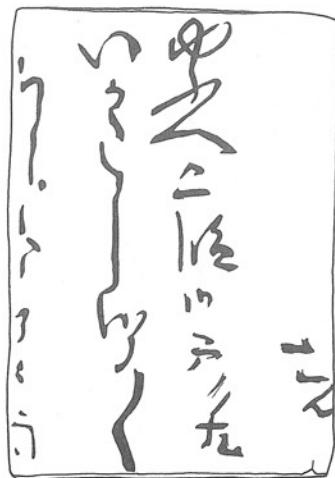
93×64×4 011

長方形の板の両面に墨書がある。肉眼及び赤外線テレビカメラ装置で確認した。鋸・鎗などの道具の貸借に関する文言が読み取れるが、全体の文意は不明である。また、表面には一回り小さく薄い墨痕が確認できるが、両者の関係はわからない。

（平田洋司）

構・遺物もしばしば出土する。

今回の調査では三ノ丸の西外郭と推定できる堀の痕跡などを確認した。また、下層からは豊臣前期の建物や木簡が出土した溝を検出した。この溝は、北から南に流れ、谷状の窪地へと通じていて。其伴遺物には、陶磁器・漆椀・五輪塔などがある。



0 5cm
2:3

—

